

私たちの

新年の抱負 辰 2024

新年明けましておめでとうございます。
大学をはじめ、設置校の皆さんに新年の抱負を聞きました！
皆さんの新年の抱負は何ですか？
今年も皆さんにとって素敵な1年となりますように。



ファイティン
だニャ

大学
文学部
都市文化
デザイン学科
1年次生

悔いのない
新年の抱負に



文武両道

大学
国際政治経済学部
国際政治経済学科
2年次生



奮励努力
努力を惜みず
学び続ける

附属高校
3年生



多くの(心)に
多くの(心)を
教員になる

大学
文学部
中国文学科
4年次生



応援しつ
つニャ

附属高校
1年生

監督さんを
日本一に！
応援してくださる
方へ
感謝しよ！



ねこ松も
描いて
ほしいニャ

附属柏中学校
2年生

本気で絵を
描いてみたい！



学業と夢
両立！

大学
文学部
国文学科
3年次生



勇往邁進
夢に向かって
突き進む

大学
文学部
歴史文化学科
2年次生



銀行員としての
キャリアを着実に
築きたい！

大学
国際政治経済学部
国際経営学科
4年次生

2024

年頭のご挨拶

元日に発生した令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域の皆様の安全確保と、一日も早い復興をお祈りします。



大変革の中での二松学舎の課題

学校法人二松学舎 理事長
水戸 英則

本学関係者の皆様方に謹んで新年のご挨拶申し上げます。

本年は、気候変動問題や経済のデジタル化、ロシアによるウクライナ侵攻、中東における紛争など、大変革の中で年明けを迎えました。学校法人経営環境面では、18歳人口の急減、生成AI等テクノロジーの発展を背景に理工農系優先の各種行政施策の推進がみられます。

今年創立147年目を迎える二松学舎では、長期ビジョン「N'2030 Plan」も折り返し地点を過ぎました。取り組みは順調に進捗し、本学は着実にステップアップしています。

これからの課題は、人文社会科学系大学として、その学問の存在意義を改めて社会へ問いかけ、重要性を示し続けながら、数ある私立大学においても独自の個性を放つ唯一無二の存在へとさらに価値を高めることです。人文社会科学系学問は、人間の歴史、文化、社会を探究し研究する学問です。現代社会における課題の解決には、理工農・医療系学問の

知見は不可欠ではありますが、それらを理解し、適切に活用するためには、人間の本質を探究する人文社会科学系学問の知見が欠かせません。

二松学舎大学では、その重要性を発信するために、①初年次教育における文理融合教育、②人文社会科学系の研究拠点のさらなる充実・整備、③研究者による講演会やシンポジウム等の開催、④人文社会科学系と理工農系の融合学部創設の議論開始等の施策を推進する方針です。両附属高等学校・中学校においては、①理系・文系のコース別選択制の見直し（高等学校）、②アクティブラーニングを通じた教育体制の充実、③グローバル化・ICT化の推進を図ります。

本年も、二松学舎の教育研究をさらにレベルアップさせ、いつも選ばれる大学、高等学校、中学校としての揺るぎない地位を目指し、皆様と共に着実に歩んでまいります。

引き続き皆様のお力添えを切にお願いして、新年のご挨拶といたします。



さらなるチャレンジへ

二松学舎大学 学長代理
高岸 直樹

新年明けましておめでとうございます。このお正月、昨年を振り返り、今年は何をしようかとお考えの方も多くおられたのではないのでしょうか。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症「5類感染症」の移行に伴い、さまざまな規制が緩和され、大学にも活気が戻ってきました。対面での授業を受け、図書館で多くの書籍や電子データに触れて研究を進め、部・サークル活動に励まれ、充実した学生生活を過ごされたと思います。

昨年11月に行われた創縁祭も、4年ぶりに学外からの来場者を迎えることができました。こうして、新しい出会いを得たり、日頃の活動の成果を発表する機会を得たりした学生も多かったと思います。

このようにようやくさまざまな経験を得ることができるようになった今、この一年に多くのことにチャレンジしていただきたいと思います。

大学の授業やゼミナールでは、理解力や思考力の向上に加え、コミュニケーション能力、プレゼンター

ション能力を高めることを目指し指導しています。しかし、技術的なことは学べても、実際にこれらの力を使わないと身に付きません。自己を成長させるためには、部・サークル活動、アルバイト、ボランティア、インターシップなどで、さまざまな人と年代問わず一緒に活動し、表現していくことが大切です。コロナ禍ではこれらが制限され、また、海外留学を断念した方も多くいらっしゃいました。

コロナ規制が解かれた今、ぜひ、積極的に外を向き、オリジナリティー溢れる体験をしていただきたい、そこからさまざまなことを得ていただきたいと願っています。

伝統ある二松学舎大学は、過去を大切にするだけではなく、これからの未来に臨み、新しい視点からの研究、教育活動を着実に進めてまいります。

年頭にあたり、私も新たな気持ちを持つとともに、皆様のご多幸を祈念いたします。



力強く 着実に

二松学舎大学附属高等学校 校長
鶴飼 敦之

新年明けましておめでとうございます。

新しい年が始まり、新たな一歩を踏み出す季節がやってきました。今年、甲辰（きのえたつ）の年です。甲は木を表し成長と活力を、辰は龍を表し力強さと勇気を象徴しています。この組み合わせは、自らの力を信じ、前向きな行動を起こすことで、成果を得ると言われています。

昨年は、感染症による制限も徐々に緩和され、学習環境はもとより、学校行事や部活動など以前の学校生活が戻ってきました。さまざまな制約から解放されたかのように、思いきり取り組もうとする生徒の姿が随所に見られました。本来の姿に力強さやひたむきさを感じずにはいられませんでした。

新しい年が始まっても、新たな学び、新しい体験、そして可能性が広がります。本校が掲げる生徒像は、「自らを高めようとする生徒」です。いかなる困難があっても、その中に

成長のチャンスが潜んでいます。自分を信じ、挑戦することは素晴らしい経験となることでしょう。

木は枝を広げ、他の木々と共に森を形成します。個々の木が強くなり、それぞれが誇りをもって成長することで、美しい森が生まれるのです。クラスや部活動の仲間と協力し、助け合い、素晴らしい高校生活を築いていってください。

皆さんが目指す目標は価値のある尊いものに間違いありません。そのゴールを達成し、輝かしい将来とするためには、スモールステップを積み重ねていくことも必要です。一歩ずつ着実に目の前の目標をクリアし、最終的な大きな目標につなげる試みが大切です。

今年も皆さんと一緒に喜び成長し、素晴らしい時間を共有していただけることを楽しみにしています。いかなる時も、学び舎である附属高等学校は皆さんと共にあります。一緒に明るいつ未来へ向かって歩んでいきましょう。



時代を見据えてさらに前進

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 校長
七五三 和男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大による安全等への配慮から、予定されていた多くの行事が中止または延期、内容の変更を余儀なくされてきました。

しかし、昨年はその困難を乗り越え、自己の成長に繋げる各行事が、さまざまな感染対策のもと幕を開けることとなりました。そのひとつ、松陵祭においては、来場者3,654名と、開校以来最高の人数となりました。「何とか皆でよい思い出を」という生徒、教職員、関係者の一丸となった強い思いの成果だったと感じます。

さて一昨年4月、基本姿勢である建学の精神と校訓および教育目標の発揚・論語による人格教育の下、新たな重点指導項目を定めました。

本校教育の2本柱、「人間力の向上」

「学力の向上」への取り組み強化と、さわやかで活気ある進学校を目指すというものです。

「人間力の向上」として、自分自身と向き合う、自分の適性を理解する、人間関係をつくるコミュニケーション能力を養う、そして今後訪れるさまざまな想定外の状況にも前向きに取り組める強い心を育てます。

「学力の向上」は、中学校2コース（グローバル探究コース、総合探究コース）、高等学校3コース（スーパー特進コース、特進コース、進学コース）それぞれで身に付ける力は、生涯にわたって有用な、問題解決力と自ら考える力です。

そして、中高における『論語』教育から、これからの時代に貢献できる十分な「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を養成し、建学の理念の実現を目指します。

関係の皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

NISHOインフォメーション

『論語』の学校 ～RONGO ACADEMIA～



講演する出雲充氏

2023年11月25日、『論語』の学校-RONGO ACADEMIA-が九段1号館中洲記念講堂で開催された。18回目となる今回は、株式会社ユーグレナ代表取締役社長の出雲充氏をお招きし、『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』～『論語』からの学びを活かして～』というテーマで講演が行われた。

出雲氏は、今さまざまな観点から注目を集める微細藻類ユーグレナ

(和名：ミドリムシ)の食用屋外大量培養に2005年に世界で初めて成功、2014年12月には東京大学発ベンチャー企業として日本で初めて東証一部に上場した。

出雲氏は、ミドリムシとの出会いから起業までの道のり、夢の実現に必要な不可欠な「メンター」と「アンカー」の存在について講演。また、かつて渋沢栄一らが説いた「道徳と経済」の両立について触れ、社会課題が山積する現代において、古典に学ぶことの重要性や若い世代への期待を語った。また、日本のリスタートのためにも、若者にチャンスを与えることができる大人であってほしいと聴衆に呼びかけた。

Profile
 いずも・みつる
 東京大学農学部卒業後、2002年東京三菱銀行(当時)入行。2005年株式会社ユーグレナ創業。著書に『僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。』(小学館新書)他多数。

教職員対象SD(スタッフ・ディベロップメント)を実施

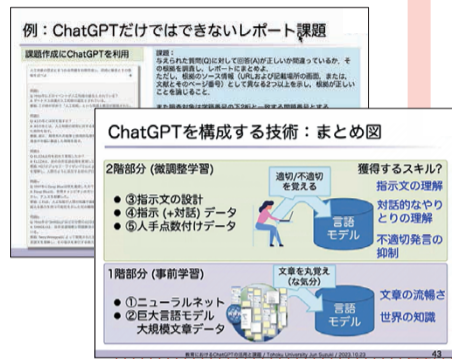
学校法人二松学舎では、長期ビジョン「N'2030 Plan」のアクションプランに、大学改革をリードする事務職員の能力向上を課題として盛り込んできたが、その後、文部科学省より、教員も含め大学の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修機会が求められたことを受け、全ての教職員を対象としたSD計画を新たに策定し、その計画に基づいた研修を定期的に行っている。

今回は、今話題のChatGPTについて、東北大学 言語AI研究センター長の鈴木潤教授による「教育におけるChatGPTの活用と課題」がテーマのオンデマンド講座を、2023年10月30日～11月24日の期間で実施した。

動画では、ChatGPTとは何か、教育現場に与える影響や活用方法

と注意点、そして生成系AIの登場によって今後想定される社会的・技術的な課題といった観点で講義が行われた。

本学では教職員向けのSDの他、教員を対象としたFD(ファカルティ・ディベロップメント)も定期的に行っている。今後も教職員の意識を高める研修を定期的に行っていく。



研修の一例

高校別・大学見学会を実施



学生の留学体験談を聞く(加藤学園高校)

二松学舎大学では、高校生の進路選択の一助として、オープンキャンパスとは別に、高校別の大学見学会を行っている。

2023年10月18日は、静岡県に加藤学園高等学校進学コース(アジアカルチャー/文系)の2年生18名がバスで来学。生徒たちは、大学説明や両学部の教員による模擬授業、本学学生による留学体験会に参加。学食やキャンパス見学なども体験した。

続く、11月24日には埼玉県立

坂戸高等学校の1年生25名が来学し、中国文学の模擬授業や大学説明を受けた後、キャンパス内の見学を行った。

参加した坂戸高等学校の生徒は「高校とは違う一歩踏み込んだ専門的な授業で漢文の新たな魅力を発見しました」と感想を語ってくれた。

なかなか体験できない大学の授業や施設見学ができたことで、高校生にとっても、大学案内や大学ホームページからでは得られない「生の情報」を得ることができる貴重な1日となっただろう。



模擬授業の様子(坂戸高校)

ホームカミングデーを開催

2023年11月3日の創縁祭と併せ、ホームカミングデーが開催された。ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホームページ上での開催となっていたが4年ぶりの対面開催となった。

会場となった九段2号館(ラーニング・コモンズ)は、風船などで装飾が施され、華やかな雰囲気で卒業生たちを出迎えた。



フォトスポットで記念撮影

昔を懐かしむ映像の上映会や、卒業アルバムの閲覧

をはじめ、フォトスポットやメッセージコーナーも設置し、卒業生と在学生在が交流する貴重な場となった。

今年の創縁祭のテーマは「黎明」。コロナ禍を乗り越え、新たな時代を迎える中、創縁祭もまた新たなものへと進化を続けていくという思いが込められている。卒業生にも懐かしさと共にこうした「進化」も感じてもらうことができただろう。



在学生・卒業生のメッセージ

人事

役職任命

2023年10月24日付

■ 副学長

福島 一浩 特別招聘教授(新)

叙勲

林武志名誉教授が瑞宝中綬章を受章

2023年11月3日、秋の叙勲が発令され、本学の林武志名誉教授が教育研究功勞として、瑞宝中綬章を受章した。

1888年に制定された瑞宝章は、公務等に長年にわたり従事し、特に成績を挙げた方々に授与される日本の勲章の一つである。

林名誉教授は、1977年より二松学舎大学に勤務。以来、文学部国文学科などで37年間教壇に立ちながら、情報センター長や副学長を歴任、学校法人二松学舎評議員など本学の教学運営に貢献した。

研究面では、近代文学の中でも特に川

端康成研究に主眼を置き、「川端康成学会」の会長を長く務め、川端康成に関する研究文献の総覧となるデータベースを編集するなど多くの業績を残している。

その他、中国社会科学院の招聘により、副団長として「日中共同シンポジウム」のため渡中し基調講演を行うなど社会活動の功績も評価された。



大学資料展示室 企画展のお知らせ

企画展：没後10年記念「作家・大西巨人」展
 会期：2024年2月21日(水)～4月13日(土)
 時間：10:00～16:00
 閉室日：附属図書館(九段)に準じる
 会場：大学資料展示室(九段1号館地下3階)
 ※会期中、作家・大西赤人氏と山口直孝教授による講演会(オンデマンド配信)も開催予定



撮影 浜井武

『神聖喜劇』で知られる作家・大西巨人(1916年～2014年)が亡くなって今年で10年。巨人は、公正の実現を理想に掲げ、世俗とのたたかいを続けた希少な文学者であった。



『神聖喜劇』原稿

今回の企画展では、本学に寄託された膨大な資料のうち、自筆資料を中心に紹介し、巨人の生涯と文学をたどる。端正な楷書で記された原稿の力強い筆蹟から、揺るがぬ主張の下、一言一句もおろそかにせず、風化に耐える表現を模索した精神を感じてもらえるだろう。

お問い合わせ(附属図書館) ☎ 03-3263-6364(月～土 9:00～16:30)

設置校 NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

2023年10月15日

教員になるための学びを深める 「教育実践シンポジウム」

二松学舎大学は教員の養成に力を入れており、現在全国の小・中・高等学校で多くの本学卒業生が活躍している。

10月15日、教職課程を履修する両学部4年次生を対象に、今日的な教育課題に関する実践的な取り組みを知る機会とするため、教職関連科目「教職実践演習（中・高）」の授業の一環として「教育実践シンポジウム」を九段1号館中洲記念講堂で行った。

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けてどう取り組むか」をテーマに、本学卒業生で、現在教育現場で指揮を執る校長先生3名による講演と、本学を卒業し、小・中・高等学校それぞれで活躍する若手教員4名を迎え、実際の教育現場での声を聴いた。

学生の事後アンケートでは、「『主体的・対話的で深い学び』はキャッチコピーとしての面が大きい」と思っていたが、各現場で真摯に取り組んでいることを知り、本当に大切なことだと理



教育現場での「生」の声を聴講

解できた。」といった声が聞かれ、教員になるために学びを深める学生のさらなる意欲向上につながった。

二松学舎大学では今後も、在学生の教職サポートはもちろん、卒業生教員のネットワーク作りまで幅広いサポートを行っていく。

- ◆講演者
乙幡英剛校長（八王子市立松が谷中学校）
／越智宏明校長（さいたま市立与野西中学校）
／今瀬一博校長（茨城県立緑岡高等学校）
- ◆シンポジウム報告者
稲友利絵教諭（葛飾区立本田小学校）
／中島桃香教諭（鴨川市立鴨川中学校）
／高原陸央教諭（船橋市立三田中学校）
／辻井七海教諭（千葉県立松戸六実高等学校）

附属高校

2023年10月28日

校外学習でTGGを訪問 実践的な英語を学ぶ

附属高等学校の1年生は、初めての校外学習として、TOKYO GLOBAL GATEWAY（以下TGG）を訪れた。TGGは海外をイメージして作られた街並みの中でグローバルな世界を体験することができる「体験型英語学習施設」で、英語でコミュニケーションを取りながらさまざまな体験ができる。生徒たちは数名のグループごとに分かれ、エージェントと呼ばれるイングリッシュ・スピーカーと共に、2種類のプログラムを体験をした。

1つ目はアトラクション・エリアでの体験で、海外の空港やレストランなどのさまざまなシーンを想定したプログラムでコミュニケーションにチャレンジした。普段は英語に戸惑うことが多い生徒も、ネイティブスピーカーのホスピタリティと巧みなチームビルディングのおかげで、積極的に英語を話す様子が見られた。

2つ目はアクティブイマージョン・エリアでの体験で、英語でのディスカッションやグループワークを通じて、英語学習と同時に特定の分野の知識や思考を深めていった。生徒たちは東京の魅力を



空港内のお土産売り場での買い物を想定

伝えたり、ニュース番組を作ったりと、英語を使って皆で協力して一つのものを作り上げる楽しさを実感できたようだった。

コロナ禍で、中学校時代には校外学習の経験が少なかった1年生。今後も多くの体験の機会を設けていきたい。



レストランで希望のものを英語でオーダー

附属柏中学校・高校

2023年12月2日

プロフェッショナルに学ぶ

附属柏中学校・高等学校では「プロフェッショナルに学ぶ」という進路行事を行っている。この行事は、保護者をはじめ、卒業生、学校関係者にご協力いただき、各分野の専門家からその職業や仕事のやりがいなどを直接聞くことができるもので、高校1・2年生および中学3年生の約700名が参加した。この体験を通して生徒たちには、自分の適性を考え、より具体的に将来をイメージしてもらうことを目的としている。

今回は12月2日の午前中に開催され、自衛官、警察官、看護師、調理師、メイクアップアーティスト、ブ

イダルプランナー、テーマパークやゲーム関連の仕事に就く方など、50種を超える幅広い職業の方々が生徒たちのために集まった。

生徒たちはその中から興味を持った職業を2つ選び、仕事内容ややりがいなどを聞いた。なかには実際に体験ができるものもあり生徒たちは熱心に参加していた。

ガイダンス終了後、生徒たちからは「職業の選択肢が増えた」「その職業に就くためにもっと勉強を頑張らなければいけないと思った」といった感想が聞かれた。

憧れの職業に就く方から直接話ができる機会はなかなかないため、生徒たちにとって自分の将来をイメージするよいきっかけになったとともに、さまざまな職業を知ること新たな発見もあっただろう。これからの進路選択に影響を与える貴重な一日となった。



人気のブライダル業界について学ぶ

附属柏中学校

2023年11月18日

田んぼの教室・収穫祭を開催



実際に生徒が植えた稲

附属柏中学校の1年生は、自問自答プログラムの一環として、校外でのさまざまな体験から学ぶ体験教室を行っている。そのひとつである「田んぼの教室」の集大成として、11月18日に収穫祭が行われた。農業体験をするだけではなく食育にもつながるこの行事も、昨今のコロナ禍により4年ぶりの開催となった。

自分たちが稲を植えて刈り取ったお米を実際に食べることができるのはとても貴重な機会であるため、入学前からこの行事を楽しみ

にしていた生徒も多い。

これまで生徒たちは、学校近くの田んぼを借りて、5月に田植え、9月に稲刈りと田んぼを通してさまざまな体験をしてきた。「田んぼは見たことはあるが入ったことはない」という生徒がほとんどだったため、生徒たちにとってはとても新鮮な体験で待ち遠しい半年となったに違いない。

そして迎えた収穫祭当日。朝から大きな鍋でカレーを作り、大きな釜で炊いたご飯をよそう生徒たち。田んぼに入ったときの感触、刈り取った稲の香りを思い出しながらカレーライスをおぼり「おいしい！」と笑顔があふれた。生徒たちの思い出に残る、素晴らしい時間となった。



食べ物のありがたみを体感した生徒たち

附属高校
第2学年
10/24~27

今帰仁城跡
▼シュノーケリング

国際通り

体験学習・マリンコース

2023年度 修学旅行in沖縄

10月下旬から11月にかけて、附属高等学校、附属柏中学校、附属柏高等学校で沖縄への修学旅行が実施された。それぞれ、平和学習をはじめ、沖縄の自然を体験する班別行動などが行われ、生徒たちは沖縄の歴史と自然を満喫した。

附属柏中学校
第3学年
11/16~19

リバー トレッキング

マリンアクティビティ

附属柏高等学校
校外学習番外編
第2学年：11/16~19

古都の教室in京都・奈良

寺社や古墳などを巡りながら事前学習で学んだ内容を確認したり、座禅や法話から普段の学校生活では得られないような学びや体験をしたりするなど、貴重な体験となった。

今帰仁村での民家体験

伏見稲荷大社のおもかる石
南禅寺の水路閣

NISHO Activity Report

ここでは、二松学舎の教員の取り組みや研究成果の報告、学業や課外活動などに励む学生・生徒を紹介します。

大学① 小久保欣哉教授がTOPPANとの共同プロジェクトで論文を発表

小久保欣哉教授（国際政治経済学部国際経営学科）は、新事業分野でヘルスケア事業に注力しているTOPPAN株式会社と共同し、2023年5月に医療ビッグデータの中でも特に電子カルテデータを用いた共同プロジェクトの成果を論文で発表した。今回の研究では、さまざまな医療情報の取得が可能な電子カルテデータを用いて、早期診断が難しいとされる膵がんの診断の一助となる予測因子を解析した。



国際経営学科の学生がTOPPANの長期インターンシップに参加決定

小久保欣哉教授が担当する「専門ゼミナール②B」で、2023年11月24日、TOPPAN株式会社での長期インターンシップをかけた選考が行われた。「現在、ダイナミズムな状況にある医療情報ビジネスにおけるTOPPANの戦略を考える」をテーマにプレゼンテーションを行い9名の学生のインターンシップ参加が決定した。

▲インターンシップに参加する学生：金子晃大さん、酒井駿太さん、佐々木史弥さん、清水翔琉さん、高岡風音さん、趙梓宇さん、中島大斗さん、吉元倫織さん、宮本沙也佳さん

大学② 坂口夢依さんが書道外部コーチとして中・高生を指導

文学部中国文学科で書道を専攻する坂口夢依さん（4年次生）が、女子学院中学校・高等学校の文化系クラブである書道班に外部コーチとして招かれ、2023年11月～2024年3月の期間、毎週火曜日に書道の指導を行っている。中学校・高校あわせて15名で活動する書道班。文化祭での出し物やコンクール出展などに向け日々練習に励んでいる。そんな中、書道を専門的に学ぶことができる本学へ、外部コーチの依頼があり、坂口さんの派遣が決まった。書道班の生徒からは「大学生なので年も近く、相談しやすい」といった声があがる。坂口さんは、「春から教員になります。この貴重な経験が自信につながり、教員になったときの心の支えになると思います」とこの取り組みへの意気込みを話してくれた。



附属高校 クリアファイルコンテストで佐野友香さんの作品が採用

附属高等学校の同窓会「松友会」が主催するクリアファイルコンテストが、今年度も実施された。毎年生徒からイラストを募集し、最優秀の作品を基にクリアファイルを作成している。今年度は8名の生徒から応募があり、完成度の高い作品が並ぶ中、佐野友香さん（1年B組）の作品が最優秀に選ばれた。完成したクリアファイルは二松学舎祭に合わせて生徒に配られた。



附属柏高校 加藤ちひろさん・栗原空雅さんが英語スピーチコンテストで1位入賞

第74回松戸地区英語スピーチコンテストに、高校1年生Reading部門に加藤ちひろさん（8組）、高校1年生Recitation部門に栗原空雅さん（8組）、高校2年生Recitation部門に荒井蓮衣子さん（2組）、全学年Speech部門に篠田佑人さん（2年4組）の4名が出場した。その結果、高校1年生Reading部門とRecitation部門で1位を受賞した2名が、2023年10月24日、千葉県総合教育センターで行われた千葉県大会へ出場した。



二松学舎「創立145周年記念募金」のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っておりますが、昨年度に引き続き、「創立145周年記念募金」として募集しております。寄付金は使途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。（確定申告のお手続きが必要です。）お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキング等で直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送り致します。何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ：これまで「二松学舎新聞」で掲載しておりました寄付者のご芳名と口数を、ホームページ上でご芳名のみ掲載に変更いたしました。詳しくはホームページの「寄付者芳名録」でご確認ください。



企画・財務課 ☎ 03-3261-1298（月～金 9:00～16:30）
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

二松学舎大学活字文化公開講座

2023年11月11日

戦争と国際社会を考える 歴史を学び、生きる力を高めるII

主催 二松学舎大学、活字文化推進会議 主管 読売新聞社

2023年3月に開催した「活字文化公開講座」の第2弾として、11月11日、「戦争と国際社会を考える 歴史を学び、生きる力を高めるII」が九段1号館中洲記念講堂で開催された。

今回は、「戦争と国際社会を考える」をテーマに、本学名誉博士で元国際司法裁判所所長の小和田恆氏、東京大学先端科学技術研究センター准教授の小泉悠氏を講演者に迎えたシンポジウムを対面とオンラインで開催。抽選で選ばれた296名が来場、オンラインでは980名の方が聴講した。

講演Iでは小和田恆氏が、「歴史に学ぶ」とはどういうことかー戦争と国際秩序の狭間で考えるーをテーマに、「歴史に学ぶ」とはどういうことかを考えるうえで重要なこととして、社会現象としての歴史が持つ必然性と偶然性を認識することが大切であることや歴史の教訓だけでなく歴史の進化、その双方を理解することの必要性について講演。

続く講演IIでは小泉悠氏が登壇。自身が専門とするロシア・旧ソ連諸国の軍事・安全保障政



左から合六強准教授、小泉悠氏、手賀裕輔教授、阿部和美講師

策の観点から「ロシア・ウクライナ戦争と向き合っ—「書く」という視点から」というテーマで、「書く」という行為で歴史を理解し、歴史に刻むことの重要性を説いた。

講演後は、小泉氏と本学国際政治経済学部の教授陣によるトークセッションが行われた。テーマは「戦争と国際秩序」。国際政治学を専門とする合六強准教授司会のもと、アメリカ外交を専門とする手賀裕輔教授、東南アジアの地域研究が専門の阿部和美講師が登壇し、それぞれの観点から意見を述べた。

トークセッション後半は、会場および配信の視聴者から質問を募集。「国連の存在意義」、「他国のこうした状況の中、日本はこれからどうしたらいいのか」などの質問が取り上げられ、重いテーマながらも時折笑いを交えたわかりやすい回答で会場を魅了し、盛況のうちに幕を閉じた。



小和田恆本学名誉博士 東京大学先端科学技術研究センター小泉悠准教授



私の一冊 | #50



本日は、お日柄もよく

原田マハ(著)
徳間文庫、2013年

附属柏中学校社会科教諭
永富 友香

言葉のもつ力は大きいです。人を励まし、癒やすこともあれば、怒らせ、傷つけることもあります。だから、言葉は使い方を間違えてはいけないものです。

しかし最近のニュースなどでは、言葉のもつ力を悪い方に使っている事件などをよく耳にします。顔も知らない相手に、簡単に傷つける言葉を言ってしまう時代。そんな今だから、私はこの本を薦めます。

会社員の主人公が幼なじみの結婚式ですご腕のスピーチライターに出会い、その道に飛び込んでいく物語です。仕事、恋愛、政治(!?)あり、テンポがよくあつという間に読むことができるでしょう。

このなかで、多くのスピーチの場面が出てきます。架空の人物がするスピーチなのに、読んでいて胸が、時には目頭まで熱くなります。人に何かを伝えるとき、想いだけでは伝わりません。想いを伝える言葉が大切なのだと、そしてその言葉は人の心を動かすものだと改めて気づかされました。

物語の中で、私が心を動かされた言葉があります。『困難に向かい合ったとき、もうだめだと思ったとき、想像してみるといい。三時間後の君、涙がとまっている。二十四時間後の君、涙は乾いている。二日後の君、顔を上げています。三日後の君、歩き出しています』。言葉のもつ力を考えさせてくれる一冊です。

クローズアップ
-附属柏高校-

生徒の学習を
全力で応援

生徒の自主学習を支援するために、附属柏高等学校には「学習クラブ」という取り組みがあります。進路部長の古川洋平先生にお話を聞きました。

Q. 学習クラブとは？

A. 放課後の学習をより充実させるため、2008年に自主学習の習慣化や学習時間の確保を目的として、有志の教員の発案で始まった、自習スペースでの学習です。大学2号館の「自習スペース(ラウンジ)」や「ラーニングコモンス(中学校・高等学校図書館)」等、校内4カ所に自習スペースを設置しており、一度に300名が利用することができます。

Q. 利用時間と利用状況を教えてください。

A. 利用には事前の登録が必要です。17時50分までは誰でも利用でき、部活動後に利用する生徒は19時10分まで利用可能です。

通常1日約50名が利用しています。定期考査の2週間前が最も多く、約200名が利用します。

Q. 生徒にとってのメリットは？

A. 塾等に行かず学校で不足分や疑問点をチューターや教員に質問し、解決することができます。部活動に所属している生徒たちでも、帰宅前にその日の復習や翌日の宿題を済ませることができます。また、学習意欲の高い生徒が利用していることが多く周りから刺激を得られ

学習クラブ



る等、さまざまなメリットがあります。

Q. チューターについて教えてください。

A. チューターは、本校を卒業し、国公立や難関私立大に進学した大学生にお願いしています。20名ほどが登録しており、そのうち1日に2~3名が得意科目を中心に指導していますが、基本的に全科目に対応しています。チューターの他、進路部や主要教科の教員も分担し、生徒からの質問対応に備えています。

またチューターは、放課後行われている補習授業や放課後講習のアシスタント、進路指導等に入ることもあります。

Q. 生徒や保護者からの反響は？

A. 生徒からは「夏休みも開室していてありがたい」、「高いモチベーションを維持したまま勉強をすることができる」、「チューターや先生に分からないことをすぐに聞くことができる」といった声が届いています。実際、本校の生徒に学校の自慢を聞くと「学習クラブ」が上位にあがり満足度の高さがうかがえます。また保護者からも「塾に行かなくてもよいので助かる」等のうれしい声を聞かせていただいています。

私“日本での勉強”
がんばっています!

キャラクターレトリ イレーネさん
大学院文学研究科(交換留学)
(イタリア カ・フォスカリ大学在学)

私は2023年9月から、交換留学生として大学院文学研究科で勉強しています。日本の本物の文化に触れたいと思い、日本への留学を決めました。幼い頃から日本のゲームが大好きで、イタリアの大学では画家・天野喜孝*について勉強しています。

私が今勉強しているのは、ゲーム、近代文学、日本語です。その中でも特に日本語の勉強に力を入れています。日本語の授業を担当する清水道子先生のおかげで、授業がとても楽しいです。先生はエネルギーで明るく、授業は毎回笑いであふれています。

私はイタリアでも日本語を学んでいましたが、教科書で学ぶ日本語との違いに驚きます。例えば、教科書に出てくるのは敬語ですが、実際に日本人が生活の中で使うのはもっとくだけた言葉ですね。こうした「リアルな日本語」をもっと学びたいです。そして帰国後も日本語の勉強を続けたいと思っています。

大学での勉強以外では、日本のいろいろなところに行ってみたくですね。すでに渋谷や鎌倉には行きました。鎌倉では偶然にも神社で結婚式(神前式)を見ることができ、とても感動しました。勉強だけでなく、こういった経験にも現地ならではの発見があり、これからも大切にしていきたいと思っています。

*ファイナルファンタジーシリーズのロゴやイメージイラストを担当した日本の画家・キャラクターデザイナー・装幀家。